

携帯電話を利用した授業評価アンケートの実施について

冬木 正彦

携帯電話の普及と機能の向上は目覚しく、ほとんどの学生がインターネットに接続可能な機種を所持している。パソコンが設置されていない普通教室での授業で携帯電話を利用して出席確認を行うための「出席確認システム」を2004年に工学部システムマネジメント工学科生産システム工学研究室が開発した。本システムは、授業支援型e-Learningシステム“CEAS”と連携したシステムである。工学部の授業で試行した結果、紙ベースの出席票で約10%の出席確認を補えば、100人程度のクラスで運用可能であることが分かった。さらに、大人数教室での利用を試すため、2005年6月、第2学舎BIGホール100で570名出席のクラスで実験を行った。この場合、予想に反し、携帯電話で出席が確認できたのは約30%に止まった。これは、ホール内の携帯の電波状態の悪さが原因と判明した。この状況を改善すべく、携帯電話キャリア主要3社に協力をお願いし、電波状態の改善の取組が始まった。

出席確認とは別に、授業中に行われるアンケート結果を携帯電話で収集し、学生の授業理解度や反応を見ながら授業を進めることを支援する「携帯アンケートシステム」の開発と実験が、関西大学の現代GP取組「進化するe-Learningの展開～授業と学習の統合的支援および教授法と学習コンテンツの共有化～」の一環として進められている。

このような状況の中、全学で実施されている「学生による授業評価アンケート」を、携帯電話を利用して試行することが全学共通教育推進機構で決定され、上記現代GP取組が協力することとなった。

全科目を対象に、携帯電話を介した授業評価アンケートを実施するには、負荷の集中や担任者の操作を不要にする必要がある。それゆえ、「携帯アンケートシステム」とは別の仕組みのシステムを現代GP取組の一環として開発した。携帯の電波

については、全学舎で電波状態の調査が行われ、NTTDoCoMo社の全面的な協力により、11月下旬にはすべての教室で100%電波が到達するよう改善された。

携帯電話を利用した授業評価アンケートが、12月1日から7日の期間に、現代GP推進研究者が担当している14のクラスで実施され、合計742名の学生が携帯電話でアンケートに答えた。提出されたアンケートは前述のシステムで正常に処理された。

アンケートは、従来どおりの紙ベースによるものと併用で実施したので、携帯電話を利用して回答した割合にはクラスによってかなりの幅があった。BIGホール100では、担任者が携帯電話で回答することを積極的に勧めた結果、出席者380名中312名(全体の82%)が携帯電話経由でアンケートに回答した。82%に止まった理由として、①接続先指定やパスワード入力などのトラブル、②キャリアや機種による接続条件の悪さ、③通信料金が学生負担であることによる利用回避などが挙げられる。操作方法の事前徹底、電波状況のさらなる改善、利用料金は接続時間ではなくデータ通信量で課金されるので数円から30円程度(契約に依存する)であることの周知、などによって回答率をさらに上げることは可能と推測される。

携帯電話で回収された回答データは、翌日には担任者がその集計結果をCEASより参照できるようになるとともに、全学共通教育推進機構へデジタルデータが渡されることもあって、アンケート回収用紙から集計のためのデータ入力作業が不要となった。

今回は限られたクラスでの試行であったが、システムはすべてのクラスでの実施を想定して開発されている。今後すべてのクラスで実施するには、全面实施に向けての合意形成と支援体制の整備が必要である。(工学部教授)

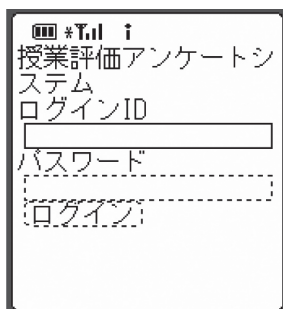


図1 ログイン画面

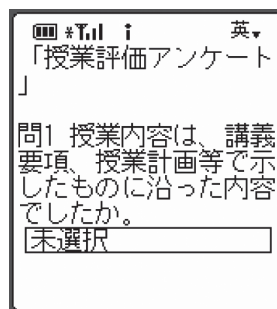


図2 アンケート回答画面

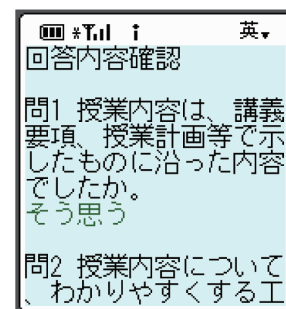


図3 回答内容確認画面